2020.11.7制定

**外国語教育メディア学会（LET）中部支部**

**研究紀要 投稿論文チェックリスト**

　このチェックリストで定められた内容が満たされていることは投稿論文を審査するに値するものと判断するための前提です。**このチェックリストの提出がない場合，内容があきらかに満たされていないと判断された場合には，論文は受理できません**のでご注意ください。

　「研究論文」は 1 2 3 4 ，「実践報告」は 1 2 3 5 を確認し，すべての内容を満たしてチェック☒の入った状態で，論文原稿と一緒に提出してください。

**1. 投稿資格の確認**

(1) 筆頭著者がLET中部支部の会員である。

(2) 投稿者全員が他支部を含むLET会員であり，本年度までの会費を納入している。

(3) 投稿論文は，外国語教育の研究論文（定量的研究，定性的研究，追試研究，理論的研究）あるいは外国語教育の実践報告である。

(4) 投稿論文は未公刊のものである。ただし，すでに口頭発表した内容を含むものであっても，投稿原稿内にその旨を記している場合は，この限りではない。

(5) 投稿論文の採択が決定した場合，J-Stageを通じてオンライン公開されることを理解している。

(6) 締め切り日の1月10日（日本時間23時59分59秒）までに論文原稿のMS Word（docx）ファイルおよび本チェックリストを提出する。

**2. 著作権および倫理的配慮について**

(1) 出版物を論文中に転載する場合は，その使用と掲載にあたり，版権所有者の許可を得ている。

(2) 研究参加者がある場合，研究内容・参加方法・結果の公表などについて必要な説明を行い，研究参加者の同意を得た旨が本文中に明記されている。

(3) 論文執筆上の倫理的配慮については，投稿者自身の責任において実施されるものとし，学会はその責任を負わないことを理解している。また，各々の所属機関等が定める研究倫理規定がある場合は，それに従って執筆，投稿されている。

(4) 差別的な用語や表現を使用していない。

(5) 研究上あるいは実践上の利点を述べる以外の場合において，ある特定の企業名や商品名の宣伝となるような文言は含まれていない。

**3. スタイル・文体の確認**

(1) フォントの種類，フォントサイズ，行数，文字数，その他のスタイルが投稿規定やテンプレートに従って執筆されている。

(2) スタイルはAmerican Psychological Associationの第7版Publication Manualに基づき，しっかりと執筆されている。

(3) 参考文献の本文中引用と文末一覧はすべて対応していることが確認されている。

**4. 研究論文のチェック項目**

研究論文とは，外国語教育および応用言語学における研究成果を，研究の意義や問題の所在，リサーチクエスチョン，検討の方法とその成果，研究あるいは教育への示唆などを明確にしながら，十分なデータあるいは議論に基づいて示した論文を指す。

以下の項目を事前によく読み，すべて満たされていることを確認した上で，論文を作成・投稿した。

(1) 形式が投稿規定およびテンプレートに準拠している。

(2) 先行研究と研究目的あるいは研究課題（research question）との関係が明確である。

(3) 研究方法や調査対象，研究手順が明確に詳しく記述されている。

(4) 全体を通じて論理が明確で，一貫性がある。

(5) 全体を通じて表現が適切で，理解困難でない。

(6) 主張に応じたデータあるいは論拠が適切に提示されている。

(7) 論文を通じて提示された情報は本学会会員にとって有用である。

(8) 研究論文を投稿するにあたっての倫理的配慮を説明する記述が十分にある。

(9) 研究結果に関連づけた研究あるいは教育への示唆\*が明示されている｡

\*ここでの研究への示唆とは，新規性のある実証的な貢献に限らず，理論的な貢献あるいは再現性の検証も含むものとする。

**5. 実践報告のチェック項目**

実践報告とは，当該実践に至る背景（研究知見から得た着想あるいは過去の実践の省察など），指導環境，指導期間，対象学習者の特徴，使用教材などを明らかにしながら，具体的な実践内容やその手順を過不足なく記述し，指導実践を読者に対して公開，共有することを目指した論文を指す。

以下の項目を事前によく読み，すべて満たされていることを確認した上で，論文を作成・投稿した。

(1) 形式が投稿規定およびテンプレートに準拠している。

(2) 先行研究あるいは先行実践と，報告されている実践目的や実践内容との関係が明確である。

(3) 実践内容や指導環境，教材，手順，成果\*が過不足なく述べられている。

(4) 全体を通じて論理が明確で，一貫性がある。

(5) 全体を通じて表現が適切で，理解困難でない。

(6) 主張に応じた議論が適切に提示されている。

(7) 論文を通じて提示された情報は本学会会員にとって有用である。

(8) 実践報告を投稿するにあたっての倫理的配慮を説明する記述が十分にある。

(9) 報告内容に関連づけた教育への示唆が明示されている｡

\*ここでの成果とは，必ずしも「実証的な効果検証」を求めるものではない（それが目的の一つであると論文中で言及している場合は除く）。

（以上）